

No. 333

# 全仏

11/62



## 盛大に全仏創立30周年記念式典

祝賀会で奉奏された舞楽。演目は「還城楽」(関連記事2-5面)

全日本仏教会

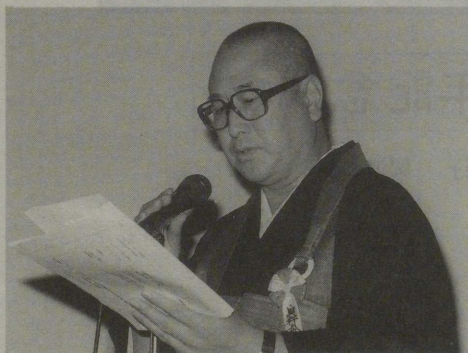
# 全仏30周年 記念式典

# フォト・フラッシュ

全日本仏教会の財団創立30周年を祝う記念式典が、去る10月7日に開催された。東京港区芝公園にある大本山増上寺にて記念式典・記念講演、そして会場を移して東京プリンスホテル「鳳凰の間」において祝賀会がおこなわれた。予想をはるかに越える大勢の御出席をいただき、特に祝賀会においては850余名が参集。大盛会となった。



午後2時 記念式典開式。野口全仏事務総長の開式のことばに続いて、全仏関係物故者追悼法要（写真）が厳修された。導師は浄土門主藤井実応猷下。雅楽に彩どられた法要は荘厳かつ華麗。偶然まぎれこんだ外人観光客は感嘆の声をあげた。



司会の籾本宏昌師

午後一時  
増上寺大殿の前にて受付開始  
前日までの雨はあがり、天候も上々。  
関係者はホッと胸をなでおろした。



受付風景。訪れる人々に接待係は大忙し

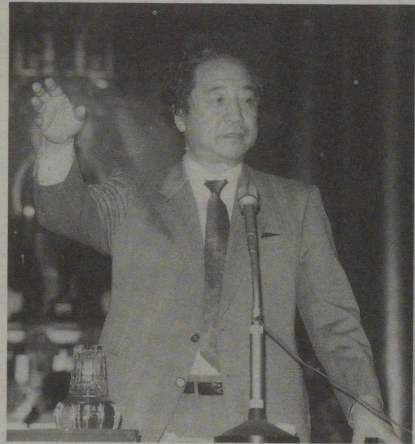
午後三時三十分 記念講演。国際日本文化研究センター所長の梅原猛氏による記念講演がおこなわれた。講題は「日本仏教の特質と将来」。

聖徳太子、最澄、空海、親鸞と、梅原人

間学ともいわれる日本仏教の祖師たちの研究は、このテーマによって一本の太いパイプで結ばれ、日本仏教という歴史の奔流が、見事に浮き彫りにされた。



記念講演。梅原猛氏の明快な口調は、さらに熱をおびてくる。



内陳参列者。御依の違う僧侶が並ぶのも全仏ならではの風景である。



感謝状を授与される鱈淵正浩師

午後三時 阿部野全仏会長、若槻理事長のあいさつに続き、全仏功労者表彰式。各役員を代表して次の十二名が、阿部野全仏会長より感謝状を受領した。

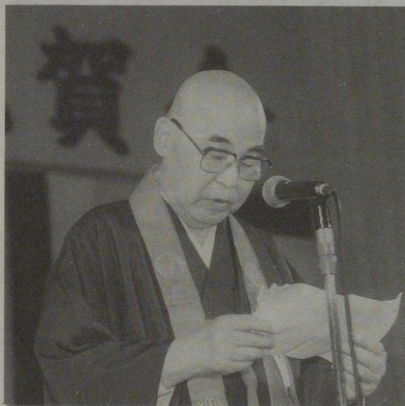
副会長経験者―小西日静兵庫県仏会長  
・沼田恵範仏教伝道協会発願者／理事長  
経験者―鱈淵正浩浄土宗宗会議員・本多  
賢純真宗大谷派宗務顧問／事務総局職  
員経験者―安本利正曹洞宗宗会議員・野  
田英隆浄土真宗本願寺派庶務部長／各種  
委員経験者―井上日宏（日蓮宗）・岩脇  
宏信（真言宗豊山派）／常務理事―竹中  
玄鼎臨濟宗妙心寺派宗務総長・江田廣典  
天台宗宗務総長／評議員―寿山良知高野  
山真言宗総務部長／各委員―近藤隆敬  
（真言宗智山派）（敬称略）



鏡割り。左から渋谷有教師（真宗仏光寺派門主）、岩崎宗秀師（東京都仏教連合会理事長）、アルジャーラ氏（ネパール国駐日特命全権大使）、亀谷荘司師（日本キリスト教連合会委員長）、中村靖氏（自由民主党文教部会長）、吉田俊蒼師（真言宗豊山派宗務総長）、花木義光師（真言宗智山派宗務出張所長）、渡辺静波師（浄土真宗本願寺派総長）。

**午後五時** 会場を増上寺から隣りの東京プリンスホテルに移して、祝賀会の受付が始まった。  
祝賀会の出席者は約八百五十名。本会加盟の宗派、都道府県仏教会、諸団体はもとより、大使館、マスコミ、政治家の方にも多数御出席いただき大盛会となっ

た。  
**午後六時** 祝賀会開式。来賓入場、三帰依文読誦、阿部野竜正全仏会長、若槻修道全仏理事長のあいさつ、主賓祝辞に続いて、舞台では鏡割りがおこなわれ、広瀬静水日宗連理事長の御発声により乾杯、いよいよ会食となった。



あいさつをする  
阿部野竜正全仏会長

**午後七時** 宴もたけなわとなり、舞台では来賓の祝辞が続いた。政治家諸氏も次々とかけつけ、祝辞の合間をぬって、御尊名が紹介された。  
**午後七時四十分** 舞台ではアトラクションの舞樂が奉奏された。浄土宗、曹洞宗、日蓮宗、浄土真宗本願寺派、天台宗の代表による合同奉奏で、初めての試みである。全仏ならではの余興をというこで企画された。（表紙写真参照）

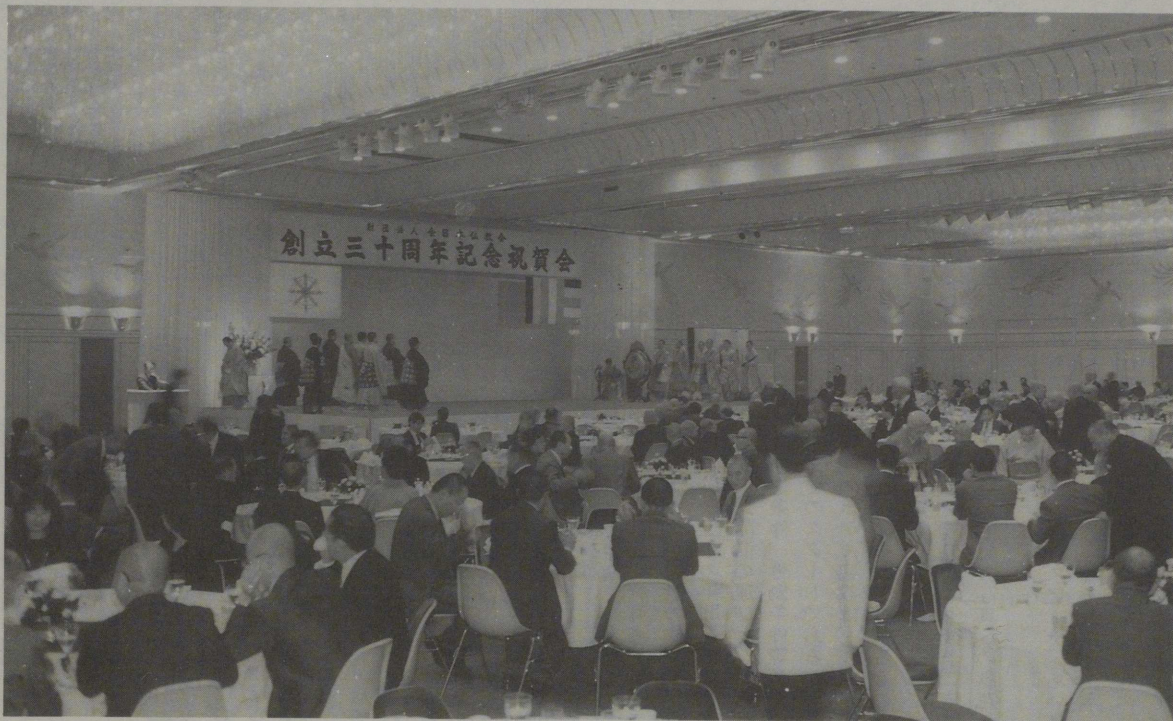


司会の樹谷淳宣師

- 御祝辞をいただいた方―敬称略―
- 広瀬静水（日宗連理事長）
  - 瓦力（自民党全国組織委員長）
  - ウィッチアン・ワタナクーン（タイ国駐日全権特命大使）
  - 平川彰（東京大学名誉教授）
  - 庭野日敬（立正佼成会会長）
  - 徐義玄（韓国仏教宗団協議会会長）
  - 中山正暉（衆議院議員）
  - 小坂徳三郎（衆議院議員）
  - 杉山令肇（参議院議員）
  - 小野清子（参議院議員）
  - 武藤嘉文（衆議院議員）
  - 松野幸泰（衆議院議員）



韓国仏教宗団協議会会長から記念品を受けとる若槻全仏理事長



立食パーティーならば数千人収容可能の東京プリンスホテル「鳳凰の間」も、着席形式では、820名が限度。850名の出席をいただいた今回の祝賀会では、会場隅々までテーブルが置かれ、自分のテーブルを捜すのが一苦勞。会場入口には、テーブルの位置を示すガイド板が設置された。



瓦力 自民党全国組織委員長



平川 彰 東京大学名誉教授



庭野日敬 立正佼正会会長

### 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 **決田商店**

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表(841) 4965

#### 記念誌発刊について

全日本仏教会財団創立三十周年を記念して発刊される記念誌『全仏三十年の歩み(仮題)』は、現在編集委員の方々により急ピッチで編集が進められております(祝賀会では摩尼清之編集委員長が経過を報告)。完成次第本誌上において紹介いたします。

午後八時三十分 山本杉全仏副会長(全日本仏教婦人連盟理事長)のあいさつに続いて、野口善雄全仏事務総長が閉会の辞を述べ、祝賀会はお開きとなった。

# ルンビニーホテル起工式

小峰全仏  
次長出席  
法華俱樂部建設



ルンビニーホテルの起工式

株式会社法華俱樂部による、ネパール王国ルンビニー地区におけるホテル建設（仮称「ネパール王国ルンビニー・ザ・パース・ホッケーホテル」）の起工式が、去る十月十一日、ルンビニーの現地において執り行われた。

起工式には、ネパール王国観光省のパンディ観光大臣、駐ネパール日本大使館の菊池参事官、ルンビニートラスト代表カフレ氏、法華俱樂部副社長小島澄三氏ら総勢四十二名が出席。本会からは、小峰立丸全仏国際文化部長が出席した。

法華俱樂部は、一九二〇年に、日本仏教徒にホテルサービスの提供をするという主旨のもとに京都に創設された会社で、現在、日本国内に十六店、海外に一店（イ

七月に国際入札が実施され、この法華俱樂部がホテル建設の権利を得ることとなり、以来五年の年間をへてようやく今回の起工式開催の運びとなった。

立地条件、労働条件等多くの課題をかかえてのスタートであるが、この法華俱樂部のホテル建設は、ルンビニー整備計画の進行に一石を投ずるものとして、多方面から大きな注目を進めている。

さて、起工式は午後十二時に、ネパール国王、王妃の写真への献花からはじまった。

続いて来賓スピーチ。あいさつにたった、パンディ観光大臣は「ネパール王国の方針としては、ネパールの巡拝聖地を歴史的、宗教的な場所として、観光の促

のホテルを経営するホテルチェーンである。

かねてより、ルンビニー整備計画の一環として、世界各国から参詣する仏教徒のために、国際級ホテルの建設が計画されていたが、一九八二年

進を図り、その保全、復旧に多大な関心を払うものである。ネパール王国政府はこの観光促進に必要なすべのものを、まとりそろえていく旨を決定している」また、「観光事業は、ネパール経済を助けるだけでなく、同国の未開発地域の経済発展の誘因ともなりえる。現在ネパールへの観光客の増加とともに、観光産業への投資も増加している」と述べ、このホテル建設が、観光事業を促進するものとして、ネパール王国としても大きな期待を寄せていることが表明された。

駐ネパール日本大使館の菊池参事官は、「政府機関以外からのルンビニー開発事業に対する活発な寄付行為は、釈尊生誕の地に対する、日本国民の大きな貢献の結果によるものである」とあいさつ。ルンビニートラスト代表のカフレ氏は、ルンビニー開発計画に、友好各国及び、非政府団体よりの活発な支援が続けられているとして、日本からの貢献を高く評価する旨を述べた。

法華俱樂部副社長の小島澄三氏は「できる限り早くホテルをオープンし、仏教徒並び、世界各地からの方々の聖地巡拝に便宜を図りたい」、「ホテル完成は、ネパールと日本の文化交流に寄与し、また両国の経済協力をさらに強めることになると信じている」と述べ、大きな拍手を受けた。

続いて、ネパール仏式式典、地鎮祭が行われ、起工式は午後二時に盛会のうちを終了した。

なお、ルンビニー・ホテルは、一九八九

年九月までに一部がオープンされ（二十八室六十二名収容）、一九九〇年の春に全館（五十六室百二十六名）オープン予定。また、一番懸念されている雨期に於ける浸水対策については、土台を一メートルアップさせることによって回避されるとみられている。建設施行については日本の清水建設株式会社があたる。

### ルンビニー新情報

ところでルンビニーを訪れた小峰全仏国際文化次長はルンビニー計画に関して次に掲げる四点の新情報を持ち帰った。

(一) 本年五月に、ルンビニートラストは韓国の建設会社サンブ建設と契約し、博物館（インド政府担当）、図書館（日本の霊友会担当）、中央友情橋（WFB担当）の建設を発注。これらの起工式が十月十四日に行われる。またこれらの建設が行われることを示す大きな看板が、建設予定地近くに立てられている。

(二) スリランカ政府による巡拝者宿泊施設の建設が進んでおり、来年中には完成の予定。

(三) ルンビニートラストは、将来の考古学調査の為、ネパールの考古学者を海外に派遣し、訓練させることに決定、すでに一名がドイツに派遣されている。また現地調査開始が決定された。

(四) UNDP（国連開発計画）からのルンビニー開発計画における建築技術顧問として、日本の千代田化学工業株式会社の長浜氏が派遣され、二年間ルンビニーに常駐することとなった。

部落差別が今日なお被差別部落の人の上に厳しく覆いかぶさっている現実、結婚や就職等において具体的にあらわれている。

その結婚・就職等に関する身元調査が今も興信所等を通して秘密裡に行われ、そのことよって被差別部落の若い人々の前途が無惨に断たれたり、時には尊い人命が奪われるという事件が相次いで起こっている。

そうした差別調査が、寺院の過去帳や、寺院教会等への問い合せという手段で行われて

いる。このよきな調査の要求に応ずることとは、人権の侵害につながり、わけても

被差別部落の人々の上に大きな障害となつてあらわれているということは久しく言われていることである。

そのような状況のなかで、真宗大谷派では再三宗派の機関誌『真宗』等で過去帳の閲覧禁止を呼びかけてきた。

また一九八一年に『真宗』誌上で「身元調査の拒否と法名点検を」と題して、当時大きく問題にされた差別法名（戒名）をとり上げて、身元調査の拒否を促し、その後さらに一九八四年に

は、各教務所をとおして、「身元調査お断わり」（同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議作製）のプレート配布、よく目につく場所への掲示を依頼した。このプレート掲示については、たとえは近畿連区では、連区の同和協議会での申し合わせをうけて、各教区でプレート掲示状況の追跡調査が行われたが、その結果、まだ掲示されていない寺院が、かなりの数に上ることが明らかになっている。

# 同和推進のために

## 真宗大谷派における過去帳の

### 閲覧禁止と身元調査拒否運動

真宗大谷派同和推進本部委員 谷 真理

また、過去帳の取り扱いにしても、不適切なままになっていることも、確認されている。

したがって、同和推進本部では、これまでの取り組みを総括・反省し、新たに、全寺院が同和学習を行うなかで、過去帳の閲覧禁止、身元調査拒否の趣旨を確かめ、この運動に尽力するよう要請している。

一方、近年、部落解放運動の進展・部落史研究の深化にともない、各地で

部落史研究所や部落解放研究所等が設立され、また、一般行政の中で教育委員会、同和推進協議会等のかかわる、差別の歴史の掘り起こしがすすめられるなかで、部落史、差別史を明らかにするために、過去帳を含んだ古文書の閲覧等の依頼がなされてくるケースが出てきている。

過去帳は、あくまで閲覧禁止を原則とするものである。しかしながら、前

述のようなケースで、差別の歴史を明らかにし、部落解放、人間解放の歴史を築いていく努力の一環であり、部落解放に資する研究や調査であることが明らかである場合、資料としての閲覧を許可し、研究に協力していかねばならないと考える。

ただしその場合、  
(1) 研究・調査の責任主体とその目的が部落解放運動を推進していくものであることを確認する。

(2) 閲覧・資料提供を許可したものでない、いずれそれが活字化されて発表される可能性も十分考えられるところから、閲覧、資料提供の依頼とそれに対する許可について、文書を交換し確認する。

(3) その際、責任を宗務行政が負う形をとる。

という諸点を明らかにし、研究協力と責任に遺漏なきを期すため、閲覧を許可する前に、かならず教務所を経由し、宗務総長の承認を得るよう通知している。

これらのことを確認する目的は、差別史研究にブレーキをかけるためではなく、責任の所在を明らかにした上で、解放運動、研究に協力するためである。一方で閲覧を禁止し、一方で、ある場合には閲覧を許可するというのは、一見矛盾するように思われるかもしれないが、しかし、それは決して矛盾するものではなく、どちらも、宗祖親鸞聖人の門徒として、自他の差別をいたみ、自他の差別を克服していこうとする歩みの一環である。

記念式典、厚く御礼

今回の全仏財団創立三十周年記念式典につきましては、大変多くの皆様の御協賛、御協力、御尽力をいただきました。

御協賛はもちろん、出席者動員にも御尽力いただきました本会加盟の宗派、県仏、諸団体の皆様。御協賛いただきました諸寺院、諸企業の皆様。勸募、式典運営等に多大の御尽力をいただいた実行委員の皆様。御多忙中にも関わらず司会を務めて下さった旗本師、樹谷師、旗本浩子さん。祝宴会場で進行を担当してくれた逸見師、そして藤木師、村松師、坂本師。式典会場で接待役を務めていただいた全日本仏教婦人連盟の皆様。会場設営

に御尽力いただいた大本山増上寺の皆様、その他にも、受付を手伝っていただきました実行委員の奥様方、長谷川弁護士事務所の町田さん、鳴美さん、日本仏教保育協会の山田さん、準備に連日夜遅くまでお手伝いいただいた長谷川師、日本宗教連盟の神田さん、そして高木さん、山本さん。その他にも多くの方々。そして当日御出席いただきました皆様一人一人に、この紙面をかりまして衷心より御礼申し上げます。(全仏事務局一同)

哀 悼

川田聖見師(元全仏副会長)

十月十九日、八十六歳で遷化。

元真言宗豊山派管長。元総本山長谷寺住主。

『事務局録事』(十月)

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 一日 局内会議                | 十二日 起工式出席(ネパール)          |
| 一日 局内会議                | 十三日 局内会議                 |
| 二日 記念誌編集委員会            | 十三日 記念誌編集委員会             |
| 二日 記念式典総務委員会           | 十四日 真言宗智山派管長晋山式出席        |
| 五日 黄檗宗晋山式出席            | 十六日 記念誌編集委員会             |
| 五日 黄檗宗晋山式出席            | 十九日 解放同盟基本法講座出席          |
| 六日 記念式典式典委員会           | 二十一日 記念誌編集委員会            |
| 六日 記念式典式典委員会           | 二十二日 ルンビニー復興日本仏教徒委員会(京都) |
| 七日 全仏財団創立三十周年記念式典      | 二十四日 法律相談                |
| 八日 同和委員会               | 二十四日 解放同盟主催宗教部会出席        |
| 八日 同和委員会               | 二十五日 念法真教支院入仏落慶法要出席(島根)  |
| 九日 法律相談室               | 二十七日 局内会議                |
| 九日 記念誌編集委員会            | 二十八日 長野県仏教徒大会出席          |
| 十一日 念法真教支院入仏落慶法要出席(鳥取) | 三十日、三十一日 同和研修会(京都)       |
| 法華倶楽部ルンビニーホテル          |                          |



株式情報生中継 わが家で証券取引。



山一の「サンライン」は、ご家庭のパソコンでリアルタイムの証券情報を見ながらその場で売買注文もできる画期的なサービスシステムです。

- リアルタイム株価などの証券情報が得られます。
- 株価チャートをご覧いただけます。
- ご家庭で株式の売買注文ができます。

ご利用時間 朝 7:00 ~ 翌朝 1:00 (日曜・祝祭日および第2・3土曜日はご利用になれません。)

※平日 8:00~18:00 ※土曜(第2・3を除く) 8:00~14:00

「サンライン」専用お問合わせ電話(通話料金無料)  
☎(局番なし)0120-001234

お近くの山一證券でもお問合わせ・お申込みを承ります。お気軽にご相談ください。

パソコンでリアルタイムの証券情報や売買注文を。

サンライン SUN-LINE

山一證券

〒104 東京都中央区八重洲2の4の1  
☎(03)276-3181(代表)

昭和六十二年十一月一日発行  
十一月号 第三三三号

発行人 野口善雄

発行所

財団法人

全日本仏教会

〒一〇五

東京都港区芝公園四一七―四  
電話〇三(四三七)九二七五